



PROFILE

まつもと・すみこ 早稲田大学第一文学部東洋史学科卒業。東京国際大学人間社会学部教授。IT企業にて、広報、販促、マーケティングなどを担当後、2000年、有限会社アリアを設立、代表取締役役に就任。「NPO法人シニアわーくすRyoma21」代表。2011年、エイジレス情報サイト「FromNow」にて「松本すみ子の@シニア」の連載を開始。

人生100年時代の働き方と 幸せなセカンドライフを提案 松本すみ子さん



「定年後も働きたい。人生100年時代の仕事の考え方と見つけ方」松本すみ子著 ティスカヴァー・トゥエンティワン 1500円

再雇用された人が
幸せになっていない
人生100年時代を迎えて、定年後も働く人が増えている。多くの会社は60歳

「働く＝雇われる」というイメージは捨てて
広い視野で自分を活かせる場所を探しましょう

が定年だが、国は65歳まで雇用を継続することを義務づけ、さらには希望すれば70歳まで働けるようになる方針も打ち出した。だが、シニアライフアドバイザーの松本すみ子さんは、「再雇用された人たちはハッピーになっていないのが現状」と話す。そんな悩めるシニアに向けて、イキイキとしたセカンドライフを送るためのアドバイス

をまとめたのが『定年後も働きたい』だ。
「定年後もできるだけ長く働いてもらう。そんな方針を国が打ち出した大きなきっかけは、人口の多い団塊世代が一齐に定年退職を迎えた。2007年問題です。年金世代が増えるのに、それを支える現役世代は少ないのですから、『だったらシニアも自分でお金を稼いでもらいましょう』というわけです。
一方で、定年を迎えたシニアたちも、まだまだ働きたいという意欲がある。今の60歳は若くて元気ですから、『能力は衰えていないのに、なぜ俺が仕事を辞めなければいけないんだ』と理不尽な思いを抱えている人が多いのです」

国はシニアに働いてもらいたいし、シニアも働きたい。しかも今は人手不足だから、働くシニアが増えれば社会全体が助かるはずだ。なのに実際は、定年後の第2の人生がうまくいかないケースは多いという。「いちばんの理由は、シニアが希望する仕事がないこと。求人があっても、今までの仕事人生で培った能力やスキルを活かせる働き口がない。なぜなら、雇う側に『高齢者に現役世代と同じ仕事はできない』という思い込みがあるからです。だからシニアの求人は、補助的な仕事や簡単な作業が中心になってしまう。
再雇用制度にしても、国が決めた法律だからしかたなく守っているだけで、60歳以上の能力を活かす仕組みや体制が整っていない会社が多い。だから再雇用されても、自分のスキルや経験とは無関係な部署に回されたり、やることもなくただ席に座っているだけで肩身の狭い思いをする。そんなの全然ハッピーじゃないですよ」